

# 鑑賞ツールのプロトタイプ展示

## この事業について

本年度、三重県立美術館では、あらゆる人に所蔵品をより能動的に鑑賞していただくために「アートでつなぐ・新しい鑑賞体験創造事業」という一連の事業に取り組みました。この事業は文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択されたもので、当館が同助成金を利用して特別支援学校との連携事業を行うのは今年度で3年目を迎えます。今年度の事業は大きく分けて1) 特別支援学校と協働したコレクションの鑑賞ツール開発 2) コレクション（版画）の制作過程や技法を体験するプログラムの企画運営の2つの活動から成り、今回のプロトタイプ展示は1の活動の成果発表にあたります。インクルーシブデザインの方法論を参考にした1の事業では、三重県立城山特別支援学校高等部の協力を得て、デザイナーと美術館職員で、充実した鑑賞を行うためには何が必要か議論を重ねて開発を行いました。美術館来館時の生徒の言葉や行動、その後の2度にわたる検討会での意見を踏まえて、彼らが実際に鑑賞した所蔵品のなかから2点、バルトロメ・エステバン・ムリーリョ《アレクサンドリアの聖カタリナ》と佐伯祐三《サンタンヌ教会》を選び、それらの鑑賞のためのカード状、キューブ状のツールを試作しました。

今回の展示では、これらのプロトタイプを皆様にもご使用いただき、ご意見をお寄せいただきたいと思います。いただいたご意見は今後のツール改善に反映させますので、どうかご協力をお願いいたします。

\* 鑑賞ツールとは…鑑賞活動を充実させるための道具。 / \* プロトタイプとは…原型、試作のこと。

\* インクルーシブデザインとは…高齢者や障がいのある人、子どもなど、従来はデザインのメインターゲットから除外されてきた人々を、製品開発の過程で積極的に巻き込む（include、包括する）方法のこと。最終的に、デザインパートナーとなった人々ととどまらず、より多くの人に訴求できるデザインを実現させる。

## 鑑賞会

2017年9月5日(火) 10:20-11:20

会場：三重県立美術館（津市大谷町11番地）

[美術体験室で自己紹介やオリエンテーション～常設展示室で「美術館のコレクションII」の鑑賞]

参加者：城山特別支援学校高等部生徒6名、教員4名、  
美術館職員5名、デザイナー（ファシリテーター）、カメラマン

## 検討会I

2017年9月5日(火) 12:25-13:15

会場：三重県立美術館

[美術体験室にて午前の体験の感想を共有し、意見交換]

参加者：城山特別支援学校高等部生徒6名、教員4名、  
美術館職員5名、デザイナー（ファシリテーター）、カメラマン

## 検討会II

2017年11月15日(水) 11:40-12:30

会場：城山特別支援学校（津市城山一丁目5番地29号）

[美術室にて9月の鑑賞のふりかえり～佐伯祐三《サンタンヌ教会》の鑑賞ツール候補の試用、意見交換]

参加者：城山特別支援学校高等部生徒4名、教員4名、  
美術館職員3名、デザイナー（ファシリテーター）、カメラマン

## 展覧会

2018年2月14日(水)～3月18日(日) 9:30-17:00

会場：三重県立美術館 常設展示室

主催：アートでつなぐ・新しい鑑賞体験創造事業実行委員会、  
三重県立美術館、三重県立城山特別支援学校

鑑賞ツールデザイン：楠木一徳（KUSUKI DESIGN）／撮影：松原豊

※ツール開発にあたっては、特別支援学校生徒の意見の他に、来館者調査の結果も参考にしました。